

5 まとめ

(1) 評価結果のまとめと今後に向けて

今年度は、第3次鎌倉市総合計画第3期基本計画前期実施計画の最終年度である平成28年度を対象に、行政評価を実施しました。

平成27年度から実施事業の評価と施策の方針の評価を一体的に行う新たな行政評価の方式がスタートし、平成27年度、平成28年度、平成29年度の3年間の経年での比較・考察を行いました。

しかし、平成29年度の評価については、これまでの積み重ねにより昨年度より理解や解釈が多少なりとも深まったものの、行政評価シートへの記入内容については、評価を行う部等の中で差がいまだに見られるなど、市にとっての行政評価の重要性の認識及び庁内の理解が未だに十分でないことがわかりました。この認識と理解の不足は、市民の皆様の税金を使って取り組んでいることの説明責任への欠如につながる懸念があります。

このように、新たな課題が明らかとなった今年度の行政評価ですが、これらの課題の改善に向け、以下に掲げる対応を検討していきたいと考えています。

- * 次年度の評価に向け、市民評価委員会の意見も踏まえ、評価方法や評価シートのさらなる改善を視野に入れた検討を行います。
- * 職員に対する行政評価研修会の開催等を検討し、改めて評価の目的を再確認するとともに、施策の方針等のレベルにおける進行管理を行う視点を養います。研修実施の際には、具体的な記載例を活用するなど、職員が理解しやすくスキルアップが図れる内容とするようさらに努めます。
- * 目標管理としての実効性を高めるため、指標等の設定率の向上及び「目標とすべきまちの姿」につながる指標の設定にさらに努めます。
- * 次年度評価の開始にあたっては、庁内向け説明会の中で、シートの記載方法だけでなく、改めて評価のねらい、意義、活用方法、指標設定の視点等についての説明を十分に行い、職員のさらなる理解を促すとともに、評価の標準化とさらなるレベルアップを図ります。

(2) 評価結果の活用

ア 総合計画基本計画の進行管理

経営企画課においては、評価結果を施策の方針等や実施事業の進行管理に活用し、総合計画基本計画の着実な進捗を図ります。

イ 目標管理に向けたマネジメントサイクルの確立

各部、各課等においては、行政評価に継続して取り組むことによって、PDCAサイクルを念頭においた事業実施や目標管理に活用するとともに、決算及び包括予算制度における予算編成などの資料として活用し、施策の方針等における目標達成を効率的・効果的に行うための事業構築にも反映することに努めます。

ウ 職員意識の向上

PDCAサイクルを確立することにより、職員に経営感覚を定着させます。さらに、職員の行政評価に対する理解を深めるため、職員研修の内容を充実するなど、引き続き行政評価に取り組む職員の意識の向上につなげます。

また、個々の職員がこの制度を的確に運用することにより、最終的な成果である市民サービスの向上に寄与できるよう、意識の向上を図ります。

(3) 評価結果の公表

行政評価の結果（本報告書含）については、市ホームページで公表します。

また、本評価結果報告書については、行政資料コーナー等での閲覧により、広く市民に公表します。

これらを通じて多くの方に評価結果の周知を図ります。